

八王子市立清水小学校 学校経営計画

1 めざす学校像・子ども像・教師像

(1)学校像

学校は子どもたちにとって、明るく元気に楽しく学び、笑顔で過ごせる場であってほしい。また、保護者にとって、安心して我が子を通わせ、共に学びに参加できる場であってほしい。そして、地域にとっては、生涯学習実現の場であると共に、児童の育成を通して社会作りに参加できる場であってほしい。だからこそ、次のスローガンを掲げる。

子どもをど真ん中にして、学校・保護者・地域がかかわり合える学校をめざして

(2)子ども像

子供たちが意欲をもって学び、豊かな社会性を身につけ、心身ともに健やかに成長できるよう、次の児童像を掲げて学校教育を充実させる。

◎よく学ぶ子（重点目標） ○思いやりのある子 ○たくましい子

この3つの教育目標を達成するために、子ども、教職員、保護者・地域に開かれた学校教育・運営を進めていく。

(3)教師像

- ① 「組織に貢献」 ・組織の一員としての役割と責任を自覚し、協働して成果を上げる意識をもつ。
- ② 「教師力の向上」 ・授業力、学級経営力の向上のために研鑽に努めるとともに、互いに学び合う意識をもつ。
- ③ 「挑戦する教師」 ・例年にとらわれず、今、目の前にいる子どもたち一人一人のために、何ができるのかを念頭において、失敗を恐れずにチャレンジする意識をもつ。

2 中・長期的な目標と方策

学習指導要領に沿い、今年度から数ヶ年を通して、以下の事項に取り組む。

(1) 学力向上をめざして

○授業改善

- ・授業改善の視点「主体的・対話的で深い学び」を実現させるために、教師主導の一問一答式、教師による説明一辺倒式の授業ではなく、子どもたちの興味・関心や意欲を高め、問題解決型の授業を実践する。
- ・体験的な学習を導入し、地域人材や外部団体等と連携することで、多様なゲストティーチャーと連携を図って体験的な学習を実施し、探究学習につなげていく。
- ・課題に対して自分なりの考えをもち、対話（話し合い）を通して、自分の考えを深める学習を行っていく。話し合いの手段として思考ツールを取り入れた授業を実践していく。

○基礎学力の徹底

- ・子どもたちが「何がわかったか」「何ができるようになったか」を実感し、身につけた知識を活用できるようにする。朝自習や放課後、夏季休業中の補習に取り組む。

- ・一人一台の学習用端末の活用、補習や業間の活動、地域人材との連携を通して、個別最適化した学習を推進し、学習習慣を身に付けさせ、基礎的・基本的な学力の定着を図る。

○外部人材の積極的な活用

- ・学校コーディネーターと連携し、地域学習や体験学習、キャリア教育等についてゲストティーチャーと連携した授業を実施する。

○体力の向上

- ・全ての子どもが運動の楽しさを十分に味わわせることができる体育の授業の充実を図る。また、体力調査の結果を基に、清水オリンピック等を通し、様々な運動を楽しく行う場や機会を設定する。

○地域愛

- ・川口川、地域の公園、学校の田んぼ、地域の施設等、地域と関わる学習を意図的・計画的に設定することで、自分たちの住む町への愛着を深め、自分が地域の一員であることを意識して生活しようとする心を育てる。

(2) 人間力の育成をめざして

○あいさつの励行

- ・子どもたちが笑顔で過ごし活躍する未来を見据え、コミュニケーション能力の向上の一環としてあいさつを大切にしたい指導を行う。具体的には教師が率先して挨拶をする姿を見せるとともに、特活を中心とした取組みを通して、あいさつ運動の推進とあいさつを大切にしたい指導の充実を図る。

○いじめ対応の強化

- ・ほっとタイムや夕会等で情報共有を図り、週1回の学校いじめ対策委員会を実施し、組織的にいじめの予防及び早期発見、早期解決、中長期的な見守りを行う。また、教員一人一人のいじめへの理解と対応能力の向上を図る。
- ・人権尊重、生命尊重の教育を実施する。
- ・ソーシャルスキルを身につけられるよう、全教育活動で相手を大切にすることを目標に取り入れていく。

(3) 特別支援教育の推進をめざして

○一人一人の子どもに合理的配慮を推進していく

- ・特別支援コーディネーターを複数指名し、コーディネーターを中心とした校内委員会を充実させるとともに、SCやSSW、子ども家庭支援センター等との関係機関との連携を図り、一人一人の状況に応じた対応のあり方を検討する。

(4) 不登校対応

○適切かつ迅速に状況把握をおこなう

- ・学校いじめ対策委員会、校内委員会に組み込み、毎週、予兆も含め、適切に状況把握を行う。
- ・状況に応じた対応策を整備し、情報の把握、状況に応じた組織的な対応を行う。また、どの子どもも社会とつながっている状況を作り出していくための支援を行う。

(5) 家庭・地域との連携をめざして

○学校運営協議会及びPTCAと連携し、地域に開かれた学校、地域で育つ子どもたちを意識し、地域の拠点としての学校の役割を果たす。

・学校だけで決定するのではなく、学校運営協議会と協働することで、保護者や地域の意見を学校経営に生かしていく。

・学校運営協議会やPTCAが中心となり、子どもたちがPTCAのイベントや放課後子ども教室の企画、地域行事に参加する機会をもうけ、子どもたちの地域愛を育てる。

○プラスバンド部

・学校と地域の架け橋になるよう、清水小学校プラスバンド部の活動を充実させる。

3 令和6年度 of 取組目標と方策

(1) 学力の向上

① 地域学習の充実

清水小学校は今年度創立50周年を迎える学校である。子どもたちの中には、お父さん、お母さんも清水小に通っていたという子も多いが、地域が学校に寄せる思いはあるものの、直接、伝わってくることは決して多くない。また、私たち教職員や保護者の方々は八王子市や地域について多くを知らず、興味もあまり示さないのが現状である。地域の様子や公園、施設、近くを流れる川口川の様子やそこに集まる野鳥に興味をもつ子も少ない。

地域に根ざし、地域やPTCAの活動に参加する子どもたちを育てるために地域学習の改善も課題となる。地域について、地域の方を通して学ぶことは、地域のつながりを深め、地域愛を育てることにもつながる。創立50周年は清水小の地域学習を充実させる好機である。生活科や総合的な学習の時間を中心に、社会、理科、特活等で地域教材を開発すると共に地域人材の発掘にも努めたい。

- ・創立50周年であることを念頭におき、生活科・総合的な学習の時間を中心にして、各学年、体験的な活動を積極的に取り入れ、地域素材を活用するようにする。その中で、課題を自分事としてとらえ、自分なりの考えをもち、話し合い活動をする中で、自分の考えを深め、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る。
- ・地域コーディネーターと連携を図り、地域人材をゲストティーチャーとして招集し、学習過程に計画的に意図的に組み込み、子どもたちの学習意欲を向上させる。
- ・課題に対して自分なりの考えをもち、対話（話し合い）を通して、自分の考えを深める学習を行っていく。話し合いの手段として思考ツールを取り入れた授業を実践していく。

② 基礎学力の定着

- ・「はちおうじっ子ミニマム」や学力定着度調査の結果などを活用して、児童の理解度の低い分野領域を明確にして、九九や繰り上がり繰り下がりの計算、漢字の読みなど、100%の習熟をめざすものを設定し、業間の活用や放課後の補習で指導をすすめる。
- ・学力調査の結果を全教員で分析・確認をし、児童の学力における課題を再認識し、学校としての学力向上の取組の改善を図り、自己の授業改善にも生かす。
- ・毎週1回の放課後補習では、補習に必要な児童を抽出し実施する。教科は国語と算数を行い、タブレット、ドリルパークや東京ベーシックドリルを活用する。状況に応じて外部人材も活用していく。
- ・家庭学習の進め方や内容を明確にして、家庭学習の習慣化を図る。また、放課後子ども

教室の宿題サポート事業との連携などを通して、学校・家庭・地域が一体となって学習習慣を身につけさせる。

- ・校内におけるOJTを強化し、授業力の向上をめざし、児童の学力向上につなげる。OJT主任を中心にして、1年間継続してOJTに取り組めるように全教職員で協力する。
- ・児童の情報活用能力の育成、ICT等を活用した教育の推進を図る。また、学習用端末を活用し、児童の意欲的な学習につなげる。
- ・各学年に応じた計画的に情報モラル教育を実施する。月に1回は全校でテーマを決めて取り組んでいく。

(2) 人間力の育成（重点目標）

① よりよい「あいさつ」の実施

- ・あいさつを通して、社会とのかかわりを大切にし、自他を大切にする心や自主性、社会性を身につけられるようにする。
- ・教師が率先して挨拶をする姿を見せるとともに、特活を中心とした取組みを通して、あいさつ運動の推進とあいさつを大切にした指導の充実を図る。

② 特別な教科「道徳」の充実

- ・社会でよりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。
- ・道徳授業地区公開講座等を活用し、道徳の授業を公開する。

③ いじめや不登校等に組織的かつ迅速に対応する体制の整備

- ・毎週金曜日6hの「ほっとたいむ」を全教職員で取り組み、各クラスの情報を共有することで、いじめの未然防止と早期発見早期解決に向けた取組を組織的に行う。
- ・ほっとたいむ後に学校いじめ対策委員会を毎週1回実施する。また、いじめ発生時には、すぐに学校いじめ対策委員会を招集し、情報収集を行って、対応に当たる。
- ・不登校については担任だけでなく学校全体で対応していく。また、SCやSSW、子ども家庭支援センター、児童相談所等、関係諸機関等と連携し、家庭への働きかけを行っていく。
- ・SNSについて考える日を月に1回設定し、メディアリテラシー教育や情報モラル教育を行うことで情報の正しい取り扱いができるようにする。

(3) 特別支援教育の充実

① 校内委員会を中心にして、特別支援教育の推進を図る。

- ・特別支援コーディネーターを複数指名し、コーディネーターを中心とした校内委員会を充実させるとともに、SCやSSW、子ども家庭支援センター等との関係機関との連携を図り、一人一人の状況に応じた対応のあり方を検討する。
- ・特別支援教育研修を実施する。
- ・特別支援教室「みのり教室」の巡回指導教員と連携をとり、校内委員会での情報共有や話し合いを通して、特別な支援を要する児童の対応に当たっていく。

(4) 学校経営・学年学級経営

① 学校経営計画実現のため、教職員一人一人が自分の役割と責任を自覚し、成果を上げる意識で職務に当たるようなシステムの整備をする。

- ・主幹教諭を中心にして、企画会議を効率的に運用し、学校経営運営のための根幹とする。

- ・教師の同僚性を高め、例年通りではなく、その時に対応して主体的に考え行動できる集団とする。
 - ・OJT を積極的にいき、若手教員のさらなる育成を図る。一つ一つの基本的なことをしっかりと学び、全教職員が同じベクトルで学校経営を行っていく。
- ② 学級経営力の向上を図る
- ・1年単位での見通しをもった学級経営を行う。
 - ・担任は学年単位で児童を見て指導に当たる。学年で見合い助け合う。
- (5) 不登校対策の充実
- ① 適切かつ迅速に状況把握をおこなう
- ・学校いじめ対策委員会、校内委員会に組み込み、毎週、予兆も含め、適切に状況把握を行う。
 - ・状況に応じた対応策を整備し、情報の把握、状況に応じた組織的な対応を行う、また、どの子どもも社会とつながっている状況を作り出していくための支援を行う。
- ② 諦めず取り組む
- ・家庭の協力のもと、定期的に連絡をとり、情報を共有して学校として対応していく。まずは突破口となるのは担任であり、諦めることなく、ちょっとした変化を見逃さずに対応していく。
- (6) 家庭・地域との連携をめざして
- ① 学校運営協議会及びPTCAの活動と連携した学校運営を進める。
- ・毎月行われる学校運営協議会で情報を共有し、学校運営について協議し、地域の人々と関わりを深めた教育活動を行い、家庭・地域と一体となって子どもたちの健全育成を推進する。
 - ・学校便りやホームページを通じて学校の情報を発信する。
- ② 保幼・小・中の連携を強化する。
- ・小中一貫教育の取組として、中野北小学校、甲ノ原中学校と3校で授業参観、教員交流、防災訓練、合同引き渡し訓練を実施する。地域を愛し、地域に根付いた児童・生徒の育成の具現化を目指す。
 - ・保幼連携として甲ノ原保育園・なかの幼稚園との連携を深める。1学期には保育園・幼稚園の保育士を対象として、低学年を中心にした授業公開を行い、連携を深める。夏季休業中の教員同士の交流を実施する。3学期は園児との交流を実施する。
- ③ ブラスバンド部の活動の充実
- ・学校と地域の架け橋となるよう、地域行事への積極的な参加をする。
 - ・地域行事だけでなく、八王子のイベントにも参加する。
 - ・マーチングも行き、ブラスバンド部の活動の場を広げる。